

人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点	学校全体として人権尊重の視点に立った学校づくりが組織的かつ効果的に進められている実践事例
-------	--

1. 基本情報

○都道府県名及び市町村名

宮城県気仙沼市

○学校名

気仙沼市立鹿折小学校

○学校のURL

<http://www.k-macs.ne.jp/~sisi-s4/>

2. 学校紹介

○学級数

【通常の学級】 8 学級、【特別支援学級】 2 学級、【合計】 10 学級

○児童生徒数

【全児童数】 219 人（平成26年11月1日現在）
（内訳：1年生 32 人、2年生 35 人、3年生 32 人、4年生 30 人、
5年生 51 人、6年生 39 人）

○学校の教育目標、人権教育に関する目標など

【学校の教育目標】

人間性豊かで自ら学ぶ力をそなえ、国際社会にたくましく共に生きる児童の育成

【目指す児童像】

- ・夢をもち、進んで勉強する子供
- ・思いやりをもち、助け合う子供
- ・協力し合い、喜んで働く子供
- ・心と体をきたえる子供

【人権教育に関する目標】

（基本目標）児童一人一人が人権について考え、その意味や大切さを理解し、人権尊重の意識に支えられた実践を進んで行えるようにする。

（重点目標）「温かい人間関係を築く豊かな心情と人権尊重精神の育成」

「人権問題を主体的に考え、判断し、解決しようとする態度の育成」

○人権教育に係る取組一口メモ

- ・統合を控えた白山小学校との交流による児童同士の触れ合い活動をとおして、社会性や協働性、思いやりの心等の豊かな人間性の育成を図る取組

○人権教育にかかる取組の全体概要

○ 方針

- ・各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間等と関連づけながら、学校教育全体をとおした指導の充実に努める。
- ・互いの人権や個性を認め合い、一人一人を大切にしたい温かい人間関係を育成する指導の充実に努める。

- ・発達段階に応じた人権教育指導の充実に努める。
- 重点的指導の場
 - ・人権に関わる教材 読み物教材【国語】、人権の歴史、差別の問題【社会】
家庭の役割、性差別の問題、育児【家庭】
性教育、感染症問題【体育】
 - ・総合的な学習の時間 人権についての課題意識をもち、自ら考え判断し行動して、課題を解決していく実践活動の展開(例：6年「福祉について考えよう」「自分たちのできることをしよう」)
 - ・道徳に関連深い内容項目 生命尊重、友情、信頼、思いやり、正義、人間愛、自他の尊重等
 - ・児童会活動 児童自らが企画・運営する活動の推進
【委員会活動、「若草まつり」等】
 - ・学校行事 人権尊重の視点からの計画・実施
【学芸会、全校美化活動、野外活動等】
 - ・学級活動 教師と児童、児童相互のより良い人間関係づくり、一人一人を大切に学級づくり

3. 特色ある実践事例の内容

◆ 白山小学校との統合を控えた小学校間の交流活動の取組

(取組のねらい、目的)

統合を控えた白山小学校との交流による児童同士の触れ合い活動をとおして、社会性や協働性、思いやりの心等の豊かな人間性の育成を図る。

(取組を始めたきっかけ)

平成25年4月に浦島小学校と統合し、平成27年4月には白山小学校との統合が決まっている。気仙沼市教育委員会は、平成26年度当初から統合準備会を発足させ、統合に向けた効果的な実践活動を展開している。

このような中、来年度13名の白山小学校児童を鹿折小学校へ迎えるに当たり、児童や保護者の不安を少しでも軽減し、統合に向けて夢をもって取り組む児童の育成を図るために、両校の交流活動を計画・実践することとなった。

白山小学校児童の課題としてあげられる内容は、小規模校であることから、クラブ活動が成立しないこと、多くの児童の中での体験が少ないことである。また、新しい環境や友達関係に不安を抱いている児童や保護者のためにも、可能な限りの交流活動を行ったり、積極的に情報を発信したりしていくことが効果的であると考え、この取組を開始した。

(取組の体制等)

- ・学校行事や全校集会活動等の児童会活動、クラブ活動や学年・学級での交流学習等を中心に、月1回以上の交流を目標とする。
- ・交流活動は、白山小学校14名の全児童を対象とする。
- ・4年生の消防署見学、5年生の野外活動等、学年独自の交流活動も可能な限り実

施する。

- ・クラブ活動の内容と人数(平成26年度、4年以上) □：運動系、◇：文化系
 - 球技……サッカー、ドッジボールなどの球技や室内ゲームを行う。(24人)
 - 卓球……卓球のルールを覚え、対戦を工夫しながらゲームを行う。(12人)
 - バドミントン……基本フォームを覚え、ダブルスやシングルの対戦を工夫しながらゲームを行う。(17人)
 - ◇ パソコン…パソコン操作に慣れ、カレンダー等を作成する。(21人)
 - ◇ 家庭……簡単な料理や小物、編み物などの手芸を行う。(21人)
 - ◇ サイエンス・環境……科学遊びや科学工作、自然観察や水生生物の観察・調査等を行う。(15人)
 - ◇ 囲碁・将棋……囲碁・将棋をはじめとしたボードゲームを行う。(8人)
- ・白山小学校児童数(平成26年度) 男6、女8、計14人
(内訳) 1年-0人、2年-3人、3年-2人、4年-6人、5年-2人、6年-1人

(取組の内容)

○ 全校児童対象

<4月17日(木)> 8:50~10:45

- ・学校見学
- ・全校集会活動「1年生を迎える会」への参加

<5月22日(木)> 10:40~15:20

- ・各学年、学級での交流
- ・クラブ活動への参加

<6月23日(月)> 8:30~10:40

- ・各学年、学級での交流

<7月10日(木)> 13:15~15:30

- ・各学年、学級での交流
- ・クラブ活動への参加

<9月11日(木)> 13:15~15:30

- ・各学年、学級での交流
- ・クラブ活動への参加

<10月17日(金)> 8:30~12:30

- ・学芸会児童公開日への参加
- ・市内音楽祭参加曲の披露

<11月18日(火)> 9:30~11:25

- ・全校集会活動「若草まつり」への参加

<12月2日(火)> 13:15~14:45

- ・学習参観日への参加(児童・保護者)
- ・保護者会…鹿折小学校防災教育の説明
第2次避難場所への避難体験

<2月5日(木)> 13:15~15:30

- ・各学年、学級での交流



4/17 1年生を迎える会参加の白山小児童



5/22 学級での交流活動の様子



11/18 若草まつりの様子

- ・クラブ活動への参加

< 2月17日(火) > 13:15～15:30

- ・各学年、学級での交流

< 3月4日(水) > 13:15～15:30

- ・各学年、学級での交流(最終回)

○ 学年児童対象

< 6月23日(月) > 8:30～12:20

- ・4年消防署見学への参加

< 9月17日(水)～19日(金) > 2泊3日

- ・5年野外活動への参加(いちのせき健康の森)
- ・両校が同日開催し、一部合同での交流活動

< 10月31日(金) > 13:15～14:45

- ・5年県理科教育研究大会本吉大会への参加
- ・5年2組に白山小学校児童が参加し、理科「ふりこのきまり」での合同学習
- ・白山小学校教諭がT1、鹿折小学校教諭がT2となり、5年1組が事前授業を担当

< 11月6日(木) > 10:30～12:20

- ・白山小学校のマラソン大会に、鹿折小学校の1年生が応援参加



10/24 5年2組理科交流授業の様子



11/6 白山小マラソン大会応援の様子

4. 実施する際に生じた課題及びその解決策

< 課題1 > 統合する側と受ける側とでの統合に対する教職員の意識の違い

- ・校長同士が各校の情報を交換し、年間計画に基づいた毎月の交流活動案について検討する。校長案に基づき、教頭同士で日程や移動方法等について検討し、具体案を作成する。
- ・教頭から具体案を提示された両校の教務主任が、事前に学年・学級の意見を参考にした上で話し合いをもち、交流の細案を作成する。学年単独での交流については、必要に応じて学年・学級担任同士で連絡を取り合い、白山小学校児童の思いや願いが可能な限り取り入れられる交流活動を具体化していく。

< 課題2 > 白山小学校保護者の統合に対する不安解消

- ・両校のPTAが参加する統合準備会等をとおして、保護者間の情報共有の場を多く設定する。また、両校の親子PTA行事等も開催し、交流の場を多く設定する。
- ・白山小学校の保護者を鹿折小学校の参観日に招待し、2校合同での学習や学級の様子を参観していただく。授業後の白山小学校保護者会において、鹿折小学校の防災教育について説明したり、第2次避難場所への体験避難の場を設けたりすることにより、保護者の統合に対する不安解消に役立てる。

5. 実践事例の実績、実施による効果

(取組の実績)

- ・校長、教頭、教務主任、学年・学級担任の各担当者に、それぞれの意見を出し合い検討した結果、予想以上の成果を上げることができた。特に、両校の教頭・教務主任同士での話合いや共通理解が、学年・学級でのスムーズな交流活動を行うことに大きな役割を果たしていた。
- ・人数の多い小学校へ通うことに不安を抱いていた児童にとって、来年から一緒になる児童と顔合わせをして楽しく交流活動できたことは、児童の不安を解消し、受け入れる側の児童にとっても、相手を思いやる児童の育成を図る上で大変効果的だった。
- ・被災していない小学校から被災した小学校へ児童を通わせることに大きな不安を感じていた保護者にとって、学校間・保護者間の取組が不安解消のために役立った。特に、鹿折小学校の参観日に児童・保護者を招き、来年度から一緒に学習する学級の様子を参観し、併せて防災教育の取組を説明できたことは、大変効果的な取組であったと考える。

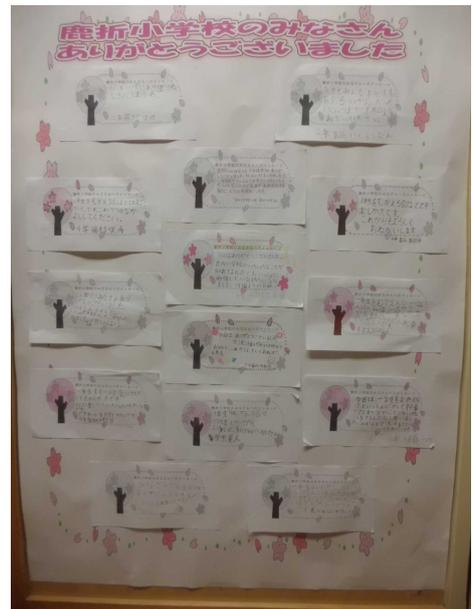
6. 実践事例についての評価

(児童の反応)

- 交流活動終了後に、白山小学校から鹿折小学校児童へ宛てたお礼や感謝の手紙よりその一部を紹介する。

【4/17 1年生を迎える会に参加しての感想より】

- ・来年はいっぱいあそぼうね。なかよくしようね。
- ・先生もみんなもとても明るい顔だったから、いつまでもそのえ顔でいてください。
- ・1年生の中で知っている人が3人いました。ししおり小学校に行ったらいっぱい友達をつくりたいです。(2年)
- ・ししおりのみなさんありがとうございました。かんしんしました。人数が多かったのでびっくりしました。(3年)
- ・1年生をむかえる会は、とても楽しかったです。これからもよろしくおねがいします。
- ・1年生をむかえる会に参加したので、楽しかったです。特に楽しかったのは、じゃんけんれっしゃです。できればまた行きたいです。
- ・1年生をむかえる会はとても楽しかったです。よければこちらの白山小学校にも来てください。(4年)
- ・今日はありがとうございました。鹿折小学校のいろいろなことが知れてよかったです。一緒に勉強したい気持ちになりました。1年間よろしくおねがいします。
- ・今日はありがとうございました。交流活動が約10回ほどあるので、これから



白山小学校児童からのお礼の手紙より

よろしくお願いします。(5年)

- ・鹿折小学校のみなさん、今日は本当にありがとうございました。校舎の中を見て回ったり、1年生をむかえる会にも参加させていただき、とても楽しかったです。来月も行きますのでよろしくお願いします。(6年)

【11/18 若草まつりを終えての感想より】

- ・新しい友だちができたのでつぎ行くときは、みんなとシーソーであそぼうね。
(2年)
- ・クラブでバドミントンをして楽しかったです。ありがとうございました。
- ・この間はありがとうございました。みなさんやさしい人たちで安心しました。これからもよろしくおねがいします。(3年)
- ・4年生のみなさん交流会をしてくれてありがとうございました。また行ったときは何かやりたいです。びっくりしたことは、4年生のクラスに30人近くいたことです。次行ったときは晴れていたら、外で遊びたいです。
- ・この間はありがとうございました。体育も楽しかったです。クラブでもとても楽しくできました。ありがとうございました。
- ・先日はありがとうございました。交流活動はとても楽しかったです。次行くときはみんなで遊びたいです。(4年)
- ・この間はありがとうございました。とっても、とっても楽しかったです。クラブでボールをパスしてくれてありがとうございました。次も楽しみにしています。(5年)
- ・鹿折小学校のみなさん、今日はやさしく私たちを迎えてくださり、本当にありがとうございました。絵の具を貸してくださったり、教科書を見せてくださったりと、とてもお世話になりました。また次回もおじゃまさせていただきますので、よろしくお願いいたします。(6年)

【11/7 白山小学校マラソン大会に応援参加した1年生へのお礼の手紙より】

- ・出し物のホヤボーヤのダンスとてもかわいかったです。私も知っている歌です。来年もよろしくお願いします。(5年)
- ・1年生のみなさんへ。この間のマラソン大会では、応えんに来てくれてありがとうございました。みなさんの応えんでとても元気をもらいました。焼きいもを食べた感想や、マラソン大会の様子や感想が書かれたお手紙も読ませてもらいました。ありがとうございました。(6年)

(保護者や地域住民からの反応)

- ・人数の多い学級の中で、手を挙げて発表し、みんなから認められてもらった姿を見て、母親として安心した。
- ・行事のときが多いので余り

交流という感じはしなかった。白山小学校児童同士が集まってしまうので、普段のような一日長い交流があるとよいと思った。

- ・学校からの地域へのお便り(全戸配布)で、統合の進み具合や交流の様子がよく分かるという声があった。

【人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント】

気仙沼市立鹿折小学校

東日本大震災で被災し、学校の統合が進められている中で、他校の児童を受け入れる側として、児童や保護者の不安を少しでも軽減し、統合へ向けて夢をもって取り組む児童の育成を目指して学校間の交流を積極的に推進した取組である。特に、両校の教員が意見交換を十分に行って意識の違いを解消した上で交流活動を実践したことは、児童の社会性や協働性、思いやりの心等の豊かな人間性を育成し、不安の解消や相手を思いやる態度の育成に結びついている。

学校統合を契機に、教育活動全体を通じて人権尊重の視点に立ち、人権教育の目標と各教科等の目標やねらいとの関連を明確にした上で、人権教育の活動と各教科等の重点的指導の場における指導とを積極的に行い、それらが有機的・相乗的に働き、効果を上げている事例である。